

シャイン 070号

## 「計画的偶発性理論」に基づいて H.Wさん

会社名：某運輸会社

役 職：一般職

資格等：産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、  
2級ファイナンシャル・プランニング技能士 (AFP)



### 【受講のきっかけ】

私は、20代は会社と仕事に慣れることで精一杯、30代40代は子育てで精一杯でした。50歳で初めて社内で大きな異動があり、転機を迎えました。しかし自分の能力不足を感じ、とても焦ってしまいました。

大学卒業以来全く勉強をしていませんでしたが、お尻に火がついた形で、仕事に必要な英語を勉強するために約3年間、週に一度仕事の後に学校に通い、中学英語からやり直しました。ここで勉強という習慣がついたように思います。

ちょうどその頃に、社内でプレゼン資料を作成する必要があり、PCスキルのなかった私はここでまた壁に突き当たることになりました。そのためパソコン教室に通いMOS資格を取得しました。同じ頃、部内で休職者が急増し、上司から「希望者は社内の健康管理部でカウンセリングを受けるように」と指示がありました。初めてカウンセリングを受けてみるととても心地がよく、「これは何だろう？」と興味が湧き、その気持ちを上司に話したところ、上司が有資格者でもあったことから、産業カウンセラー資格の存在を初めて知りました。

養成講座の会場が会社のすぐ隣の駅だったことから、軽い気持ちで説明会に参加したことが受講のきっかけとなり、その後の資格取得の入口にもなりました。キャリアコンサルタントの資格も取得し、CLの不安事がFPの知識と重なっていることが多いことに気づき、さらにFP試験の受験へと続けました。次から次へと自然と道が出来ていったような気がします。まさにジョン・D・クランボルト教授の「計画的偶発性理論」そのものでした。

### 【資格取得後の活動状況】

「何か」を続けていると必ず、「何か」が見えてくると思います。この「計画的偶発性理論」に従って「好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・冒険心」といった行動特性が、次の「何か」を取り込んでくれているように感じます。

私の現在の仕事は、お客様のサポート業務です。クレーム対応がほとんどで、ストレスの溜まる業務でもあります。そのなかで「自分に何かできないか」と考えていくうちに、社内でWellness活動が発足し、アイデア募集があったので「Wellness通信」の発行を提案しました。今はPCの知識も含め、学んだ知識を生かして通信の発行を定期的に行っています。

いつか相談業務も行えるよう、現在は産業カウンセラー協会の相談員研修を受講中です。持続性を持ちながら「何か」をやっていると、きっと「何か」偶発的に道ができてくるように感じます。

今後も転機があると思っていますが、「傾聴」を学んだことでCLの支援だけでなく、同時に自分自身も支援しているような、そんな気がしています。